

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像  
難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦しつづける子

令和7年度 重点目標  
何にでもチャレンジ！何度でもチャレンジ！笑顔でチャレンジ！平岡っ子！ ー自分の場所で 自分のペースで 楽しめる子ー  
1. 「生きぬく学力」の育成 2. 豊かな心と健やかな体の育成 3. 学校力・教師力の向上 4. つながりひろがる教育の推進

確かな学びの現状  
●本校では「話す・聴く」力の育成に重点を置いてきた。今後、話し合い活動等で経験を積み重ねて、さらに学びを深められるようにしていく。  
●昨年度の学力調査等の結果において課題となったのは、児童の学習への当事者意識と学習における社会とのつながりの低下である。これらの課題を踏まえ、学習への当事者意識醸成を図るために、今年度は「当事者意識をもった学習者の育成」の研究に取り組む。特に今年度は、さらに学びを深めるために、話し合いを通して考える力の育成を図っていく。  
●当事者意識をもち、社会とつながりながら学習を進めるには、読書習慣やICTの活用は必須であると考え。そのための環境づくりや教職員のスキル向上に努めていく。

豊かな心・健やかな体の現状  
●体育科の授業を通して、体を動かすことに対する喜びを感じられることをめざしながら体力の増進を図っていく。  
●昨年度の学校評価アンケート項目「友だちには、良いところがあると思う」では96%の肯定的回答があった。道徳科の学習や人権教育を通して、一人ひとりが多様性を認め合える児童・集団の育成を行っていく。  
●健康への促進、生活習慣づくりの啓発を行ってきた。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	当事者意識をもった学習者の育成	●参加度の高い授業づくり ・研修テーマに基づいた公開授業を、全学級担任もしくは教科担任が行う ・「分かってほしい」という自律的な学習意欲の向上に努める  ●問題解決的な学習における話し合い ・自分の考えを書いたり、友だちの意見を聴いたりできるように指導する	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	○ 学校評価アンケートでは、「分かってほしい」という学習意欲や、考えを書く・話す活動、友だちとの話し合いに関する項目で、いずれも80%以上の肯定的回答が得られ、授業改善の方向性が一定の成果を上げていることが確認できた。これらの成果を維持・向上させつつ、話し合い活動の質の保証や授業の主体性向上に関わる改善を継続していく必要がある。	○ 学校評価アンケートにおいて「学習内容がよく分かる」「友だちと考えを伝え合ったり話し合ったりしている」等の項目で80%以上の肯定的回答を得ることができた。全学級担任・教科担任による公開授業や、校内研究授業等の研修を通じ、教員の授業改善への意識が高まり、児童が主体的に学ぶ姿が定着しつつある。今後は、個々の思考をさらに深めるための発問の工夫や、対話の質の向上に向けた実践を継続していく必要がある。	○ より良い授業を追求する姿勢は評価できる。数値に表れにくい対話や質の向上に向けて、着実に取り組みを進めていることは好ましい。
	読書活動	読書習慣を身につけるための、読書環境づくりの推進	●読書環境づくり ・読み聴かせ、並行読書の実施 ・ノートや成果物による読書量の「みえる化」	学校評価アンケート →肯定的回答7割以上			△ 読書環境づくりに関する取り組みは継続しているものの、「本を読むことは好きだ」という項目の肯定率は67%と依然として最も低く、読書量や読書習慣の定着に課題が残っている。児童が「読みたい本に出会える機会を増やし、読書の楽しさに気づける環境づくりをさらに進める。	△ 読み語りや環境整備を継続しているが、「本を読むことが好き」という項目は67%に留まっており、依然として課題が残る。図書委員会の活動活性化や、児童が興味をもつ選書の工夫により、本に親しむ機会は微増した。次年度は、読書意欲をさらに喚起するため、教科と連動した読書指導を一層推進したい。	○ 低・中学年の貸出状況は非常に良好である。今後は高学年での学習活用をさらに促してほしい。肯定回答67%という結果も前向きに捉えている。
	ICT活用	個別最適な学びと協働的な学びの推進としての一人一台タブレット活用の推進	●タブレット活用の推進 ・発達段階や個性に応じたタブレット活用の推進 ・各学年でつきたいICTスキルを計画的に指導 ・長期休みや家庭学習でのタブレット活用の推進	活用状況 チェックリスト	授業での活用状況	2学期 (10月)	- 発達段階に応じて学年で活用方法を検討の上、タブレット活用を進めている。社会科や総合的な学習の時間などの調べ学習やまとめ学習だけでなく、体育科で動きの分析や共有なども活用を進めている。年度内に活用の充実度を測る児童アンケートを行う予定である。	○ 社会科や総合的な学習の時間、体育科など、各教科でタブレットの積極的な活用が進んだ。情報の検索・共有といった基本的な操作に加え、自らの考えを表現するツールとしての活用も定着しつつある。1月に更新された新端末が一人一台完備された環境を活かし、さらなる授業での適切な活用と、情報モラル教育の徹底を図っていく。	○ 体育科等での客観的な分析ツールとしての活用は良い方向。今後は様々な教科でのさらなる活用や表現の広がりを期待したい。
豊かな心・健やかな体	つながる心	多様性を認め、様々なことに自らチャレンジしようとする力を身につける	●他者との関わりを大切にしたい学校生活 ・全校集会や学級であいさつの大切さを日々指導する ・他者意識をもち誰もが居心地の良い環境となる学校づくり  ●全員に出番と居場所のある学級づくり ・学習場面、生活場面での活躍できる場の設定 ・自分や友だちの良いところをみつける場面の設定  ●いじめ防止に向けて ・道徳教育や人権教育を通して、豊かな人権感覚を育む	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	○ 学校生活における「他者との関わり」「居場所づくり」「いじめ防止」などの取り組みは、児童の安心感・自己肯定感・人間関係の良好さにつながり、ほとんどの項目で高い肯定率が維持されている。特に挨拶・居場所意識・友だち理解に関する数値は非常に高く、学校全体の人間関係づくりの成果が明確に示された。これまで成果が見られた「あいさつ」「居場所づくり」「相互理解」をさらに継続しつつ、いじめ未然防止の観点から、安心して意見を言い合える関係づくりと個別場面での丁寧な支援を強化していく。また、いじめ防止に関しては、アンケートで困り感を抱えている児童に丁寧に向き合い、早期発見や対策に努めている。	○ 「他者との関わり」「居場所づくり」等の項目で80%以上の高い肯定感を得られており、良好な人間関係が構築されている。毎日の正門での校長とのあいさつや相互理解を促す指導が、児童の安心感や自己肯定感の向上に繋がった。いじめ防止についても、アンケートによる早期発見と迅速な対応を徹底している。今後も一人ひとりに寄り添った丁寧な支援を継続し、集団の中での個の成長を支えていく。	○ 児童が学校生活を楽しんでいる様子が伺える。いじめアンケートは早期発見・見守りに効果的であるため、今後も継続して取り組んでほしい。
	健康な体	児童一人ひとりが健康で安全に生きようとする力を身につける	●自律的な健康の推進 ・関係機関と連携し、インターネットやSNSの活用、喫煙・薬物乱用に関する学習を進める  ●運動習慣・生活習慣づくり ・体育科授業の充実 ・運動と睡眠、食育の適切な習慣づくり	実施の有無	実施状況	学期末 又は 年度末	○ 運動習慣・生活習慣づくりに関する取り組みは安定して成果を上げており、「体育の重要性」や「運動が好き」という児童の意識は高水準で維持・向上している。体育科授業の充実や健康習慣の指導が、児童の運動意欲の支えとなっている。体育科授業の質をさらに高めるとともに、学校全体で運動・睡眠・食育を結び付けた「健康習慣づくり」を継続し、児童の運動意欲と健康リテラシーの向上を図る。	○ 運動習慣づくりが定着し、体育科授業の充実と相まって児童の運動意欲が大きく向上した。特に1月の1か月間実施した「縄跳び朝礼」では、寒さに負けず全校で体力向上に取り組む姿が見られ、冬場の運動不足解消だけでなく、目標に向かって粘り強く練習する態度の育成に繋がった。今後は健康リテラシーのさらなる向上を図り、家庭と連携しながら生涯にわたる健康な体づくりの基礎を培っていく。	○ 体力・持久力の向上を期待する。体育の授業で、持久走の単元に取り組むなど、子どもたちが目標をもって運動に取り組める環境を整えてほしい。
信頼される学校	地域協働	学校情報を積極的に発信するとともに、地域とともに歩む学校づくりを進める	●地域連携 ・学校ホームページ、校報での積極的な発信 ・地域人材の積極的な活用	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	○ 学校ホームページや各種通信、アプリを活用した積極的な情報発信は、保護者・地域から非常に高い信頼を得ており、日々の学習の様子を可視化し、わかりやすく伝える取り組みが浸透したことで、学校と家庭・地域をつなぐ基盤が強固なものとなっている。	◎ ホームページやアプリを活用した迅速かつ多角的な情報発信により、保護者アンケートで94%という極めて高い評価を得ることができた。学校の様子を可視化することで、地域・家庭からの信頼がより強固になった。今後は、地域人材を活用した学習活動をさらに深め、学校・地域が双方向で支え合う「地域と共にある学校づくり」をより一層推進させていく。	◎ 学校からの積極的な発信が、地域や保護者にしっかりと伝わっている。情報の可視化により、学校への信頼がより強固なものとなっている。

校長より(年度末)  
平岡っ子たちのすてきなところとして、あいさつと生き物の世話があげられる。このすてきなところをこれからも保ち続け、自他ともにさらには、すべての命を大切にしていけることができる子どもたちへと成長し続けてほしいと願っている。見守り隊の活動をはじめ、平岡っ子たちの健全育成を願い、積極的な考動を起こしてくださっている地域や家庭の方々に対してとても感謝している。これからも変わらぬ応援をいただけたらありがたい。ICTに関しては有効に活用できる力の育成には取り組んでいくが、読書活動や書く力の育成に対して重点的に力を入れていきたいと思っている。学校としては、平岡っ子たちとともに先生方も絶えずチャレンジを続け、ともに成長していけるようにチーム平岡として頑張っていきたいと考えている。

学校関係者評価者から(年度末)  
開校60周年を迎えた今年度は、新しく掲げられた学校教育目標のもと、子どもたちが「自分たちで決めて行動する」姿や「当事者意識」をもって学ぶ姿が各所で見られた。先生方が一丸となって授業改善やICT活用に取り組まれている成果は、子どもたちの活気ある表情に表れている。特に地域協働においては、HPやアプリを通じた迅速な発信により、学校の様子が地域・保護者に手に取るように伝わり、心強く感じている。読書活動や体力向上(持久力の強化)といった継続的な課題についても、学校・家庭・地域で見守りながら、子どもたちの健やかな成長を支えていくことが望まれる。